

令和7年度 岡山市 英語教育改善プラン

目標

身に付けた知識を活用することで「伝わった喜び」を感じられる授業づくりの推進を図るとともに、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成する。

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①R6全国学力・学習状況調査の質問調査「英語の勉強は大切だと思いますか。」の結果において、向上が見られた。

(R5:90.8%⇒R6:92.0%)

②パフォーマンステスト等の補助におけるALTを活用する学校の割合に向上が見られた。

(R5:75.0%⇒R6:90.7%)

未だ改善が必要な点

①R6全国学力・学習状況調査の質問調査「英語の勉強は好きですか。」の結果において、向上が見られなかった。

(R5:66.0%⇒R6:64.0%)

2. 要因分析

①小学校で外国語科が教科化されて5年経ち、ALTとのチームティーチング等を通して児童にとって英語が身近なものとなり、自分たちにとって英語が必要なものだという認識が高まったことで、状況が改善されたと考えられる。

②説明会において、ALTの活用事例を示したことによって、各学校における活用状況が改善したと考えられる。

①言語活動の題材を児童が自分事として捉えられず、児童が主体的に取り組むことができていないと考えられる。また、児童の英語使用場面が少なく、「英語が伝わった」「英語が理解できた」という経験が少ないことが予想される。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①ALTを積極的に授業に参画させることで、児童がALTとやり取りする場面をより多く確保し、児童が英語でコミュニケーションをとることの楽しさや伝わった喜びを感じられるような機会の充実を図る。

②授業研究会や校内研修等の機会において、ALTの参画が小学校における指導のポイントにもつながることについて教師の理解を深めるとともに、好事例を普及することで、パフォーマンステスト等の補助におけるALTを活用する学校の割合の改善を図る。

①主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業研究会や校内研修等の機会を捉え指導助言する場を設けることで、コミュニケーションの目的や場面、状況が適切に設定され、児童が言語活動に取り組む必然性を十分に意識できるような単元構想の推進を図る。

◇一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組◇
各資格・検定試験の基準を選考試験実施要項に示し、受験区分に「英語枠」を設けている。それらの基準を満たす資格所有の有無を採用する際の考慮事項としている。

令和7年度 岡山市 英語教育改善プラン

目標

身に付けた知識を活用することで「伝わった喜び」を感じられる授業づくりの推進を図るとともに、主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 56.5% ⇒ R7: 60.0%)

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①生徒の英語力の状況が向上した。
 (R5:53.1%⇒R6:56.5%)
 ※全国学力・学習状況調査においても、偏差値が向上した。
 (H31:49⇒R5:50)

未だ改善が必要な点

- ①英語担当教員の英語力の状況に課題がある。
 (R5:40.7%⇒R6:36.5%)
- ②家庭学習の課題として、1人1台端末を用いた発表や話すことにおけるやり取りを行っている割合に課題が見られる。
 (R6:50.0%)

2. 要因分析

- ①中学校第3学年を対象に実施した英語力測定試験により、生徒の英語力を客観的に把握すると共に、授業改善に生かしたことで改善したと考えられる。

- ①英語担当教員英語力向上事業が終了したことから、教員の自己研鑽の場が減少したことが要因の一つと考えられる。
- ②家庭学習の課題としてICT機器を使用させようとする意識が低いことが要因の一つと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①中学校第3学年対象に実施した外部検定試験は今後も引き続き行い、教員はその結果を分析することで、自身の授業改善に繋げ、生徒の英語力の向上を図る。また、授業改善に生かした好事例を収集し、普及する。
- ①教科書の改訂に伴い、各種研修会等の機会を捉え、各学校において「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を改善し、活用促進を図ることで、生徒の資質能力の育成につなげる。
- ①ALTとの日常の協働を通して教員の英語力向上を図っていく。また、各種研修等の機会を捉え、教員に自己研鑽の必要性を伝えるとともに、自身の英語力を把握し、自己研鑽につなげるための一助とするよう外部検定試験の受検や「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」の受講を促進する。
- ②各種研修等の機会を捉え、家庭学習においてICT機器を活用することの必要性やその効果等を教員に伝えることで、話すことの資質能力の育成を図る。

令和7年度 岡山市 英語教育改善プラン

異なる国の人や文化を身近に感じる機会を増やし、積極的に世界の人々とつながろうとする生徒を育成する。

目標

- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合50%を目指す。
- CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合20%を目指す。

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①ALT等の授業への参画状況に向上が見られた。

(R5:1~24%⇒R6:50~75%)

②ICT端末を活用した家庭学習の課題を週1回程度実施している。

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力の状況に向上が見られなかった。

(市立高は一校のため非公開)

②英語担当教員の英語力の状況に向上が見られなかった。

(市立高は一校のため非公開)

2. 要因分析

①ALTを常駐させることで、ALTに対する心理的なハードルが下がり、積極的な協働に対する意識が向上したと考えられる。

②公開授業研究協議会において、学校の研究主題に合わせて、ICTを活用することの有用性等について伝えたことで、学校全体の意識が向上したと考えられる。

①複数の領域が統合された言語活動が不十分だと考えられる。

②これまで以上に日常的に自身の英語力向上の機会を創出したり、意識を高める必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

○ALTの常駐

・ALTを常駐させることで、生徒とALTがコミュニケーションを図ることができる機会を確保し、生徒の英語力の向上を図るとともに、英語による言語活動の充実を図る。

○言語活動の充実

・思考力、判断力、表現力等の育成に重点を置き、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて習得した知識・技能を活用することができる言語活動を設定する。
 ・国際交流活動等につながる学習となるよう計画したり、交流でうまく伝えられなかったことを次の機会でするように修正したりするなど、実践と学習の往還を図る。

○教員の英語力・指導力の向上

教員に自己研鑽の必要性を伝えるとともに、自身の英語力を把握し、自己研鑽につなげるための一助とするよう外部検定試験の受検や「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」の受講を促進する。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式(様式2)

岡山市教育委員会

岡山市教育委員会管轄の高等学校は1校のみのため、一部非公表としています。

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)											
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)											
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	100	100	100	100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	100	100	100	100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	0	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)												
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	100	100	100	100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	53.1	55	56.5	60		60		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	88.6	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	97.4	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	84.2	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	97.4	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	40.7	50	36.5	50		50		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	92.1	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	100	36	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	83.7	100		100		100		100